

2026年度日系社会研修 コース概要

No	47
所管センター	札幌
分野	その他
研修コース名	ドローン・人工衛星情報技術を活用した農地、森林、野生生物生息地の評価と管理手法に関する研修
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月10日（木）
提案団体	株式会社インターリージョン(酪農学園認定ベンチャー)
提案団体ウェブサイトアドレス	https://inr.jp
研修員必要資格	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。GIS、ドローン、リモートセンシングソフトの操作については問わない。
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	英語
日本語能力 (JLPT目安)	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。
期待される成果 (習得する技術)	1) GIS技術：GISソフトArcGISの基本的な操作、解析手法を習得する。 2) GPS技術：GPSによる農地計測、デジタルカメラとGPSを利用した農地管理。野生動物へ装着するGPSによる野生動物の行動解析手法を習得する。 3) リモートセンシング技術：ArcGIS, Metashape, ENVIなどリモートセンシングソフトを利用し、Dove, Sentinel-1, Landsat, Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、緑地抽出手法、収量予測手法などを習得する。 4) ドローン技術：操縦方法、データ解析手法、日本におけるドローン運用法規等を習得する。
研修計画（内容）	基礎的なGIS・ドローン技術を習得する集中講習に参加し技術の向上を図る。 ドローン開発を行っている国内の研究所や民間企業等の先進地を視察し、最先端ドローン技術を学び、今後の共同研究のネットワークづくりを行うとともに、GIS、ドローンを活用した森林管理(REDD)や野生動物管理に関する講義に参加し、研究及び情報交流を図る。また、出身国(地域)の実際のGISデータ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後にすぐに利用できるデータベースを構築する。なお、使用する機器及びソフトの一部は、帰国後にも利用できるよう、本学が提供する。 また、本研修では、英語による講義であるため、必要最低限の日本語能力で十分である。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	この研修では、ドローン、GIS、GPS及び人工衛星画像を使用したリモートセンシング技術を活用しながら、地形、土壌、気象情報などの解析を行い、環境保全と両立する営農計画、森林計画、土地利用計画の策定手法を習得する。酪農学園大学は、2009年に米国のESRI社から、GIS技術の特に優れた機関として、日本の大学としては一校SAG賞を受賞するなど、国内最先端のGIS技術を有している。また、酪農学園大学は、国土交通省認可のドローンスクールを2021年に開校している。酪農学園認定ベンチャー(株)インターリージョンは、これらの酪農学園大学の技術、知財を広く社会へ還元するため設立された社会貢献企業であり、これらの技術指導は、日系社会の農業生産力を高めるのみではなく、安心、安全な食品を生産することにより、日系社会の食生活の改善及びSDGsの達成に貢献する。
応募希望者への特記事項	研修の詳細は金子までメールで問い合わせてください。